

(個別研修)田中邦子

研修テーマ：障害者と仕事について

1. 障害者支援施設における職業リハビリテーションを学ぶ
2. 企業における障害者雇用の工夫を学ぶ
3. 1.2.におけるアメリカとデンマークそれぞれの取組みを比較する

研修地：アメリカ ニューヨーク州ニューヨーク

研修日：5月15日～5月18日

①Venture House NY

精神障害者のリハビリおよび職業訓練施設。

1940年代のニューヨークで始まった精神障害者の自助活動による相互支援（クラブハウスモデル）のスタイルを引き継ぐ最古の事業所。

総勢80名ほどの利用者が通所している。

所長から説明を受け、その後はプログラムを見学、活動に参加。



利用者とスタッフ

全員で朝のミーティング



新規利用者への初回インテークの様子



SSTのプログラム風景

利用者はグループホームに住んでいる人が多いが、アパートで一人暮らしをしている人もいる。
住宅サービス（事業所が借り上げたアパート）の利用者も多い。
家賃は利用者が3割を負担、残りの7割はNY市から支払われるという。
通所には小型バスでの送迎サービスもあり。

プログラムの企画やイベントの準備、会計事務、昼食の準備や事務所の清掃など、施設の運営に
利用者が積極的に関わっており、少額の報酬も出される。

活動中、急に大声で叫びながら暴れ出す利用者がいて、警察官5人ほどが駆けつけてくるという事
態あり。昨今では精神障害者の対応がよく分かっていない警察官が多い、との声が多らしく、
警察通報911ではなく、保健士やソーシャルワーカーなどの支援機関につながるライン988が作ら
れたそう。

②Jewish Hasidic Community, Brooklyn

ユダヤ教の中でも超正統派といわれるハシド派のコミュニティを訪問。

ユダヤ教についての基本情報から具体的な生活の実際についてなど、ラビによる講義を受ける。

その後、シナゴーク(礼拝所)や宗教学校、ユダヤ教ショップやユダヤ食品店などを見学。



手書きの写本を示しながら説明をするラビ



総本山シナゴーク（通称770）に潜入



宗教学校の様子

厳しい規則の中、宗教の勉強を第一に生活している人々。障害者に対しては、コミュニティ内において様々なサポート体制が整えられている。発達障害や学習障害、精神障害などへのサポートに特化した支援グループもあり、コミュニティ内での独自の制度により運営されている。宗教学校にも、生徒の個別の悩み相談に応じるカウンセラーが配置されている。